

令和7年度委員会の進め方について

R7年8月26日（火）

福知山公立大学

地域経営学部 木村昭興



1 令和7年度に議論する4つの提案

2 各グループでの議論の進め方

3 グループ分け

4 グループワーク

01

令和7年度に議論する4つの提案

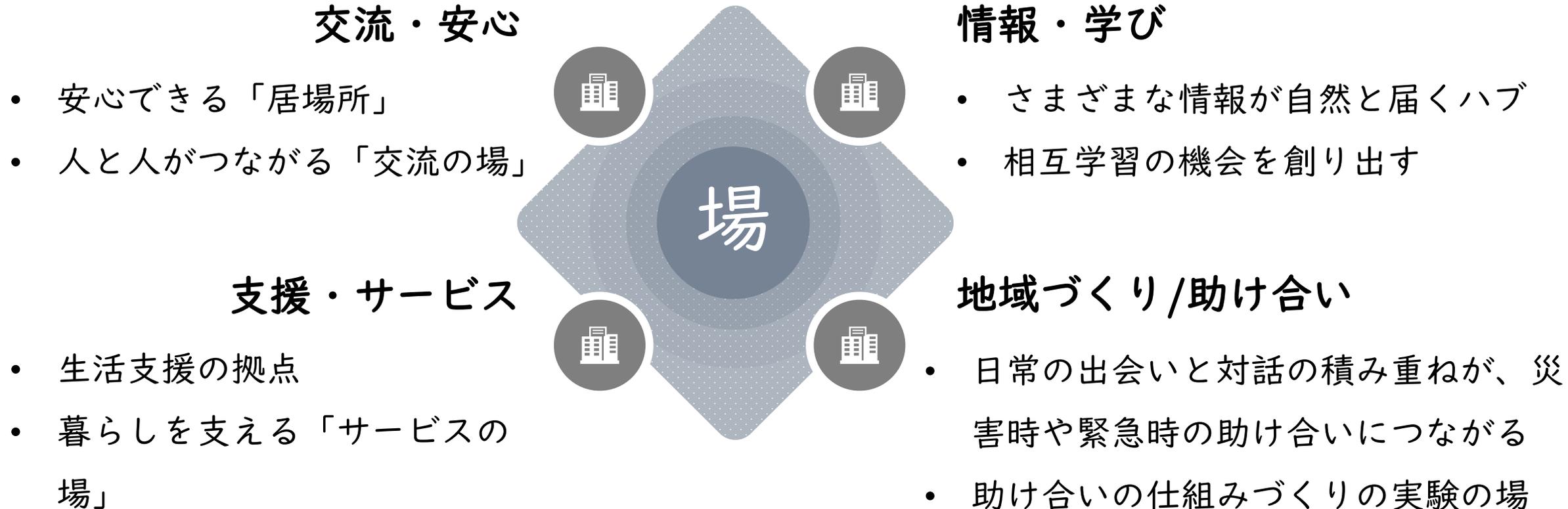
1-1 令和7年度議論する21の提案

提案No	内 容
提案 1	生活実感を入口に、地域のことを「自分事」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう
提案16	自動車がなくても、買い物や通院に支障なく生活ができる工夫、仕組みをつくろう
提案17	身近な場所に拠点をつくり、様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう
提案18	医療や介護をできる限り必要とせず、健康で生き生きと長生きする「健康長寿」をめざそう

1-1 令和7年度議論する21の提案

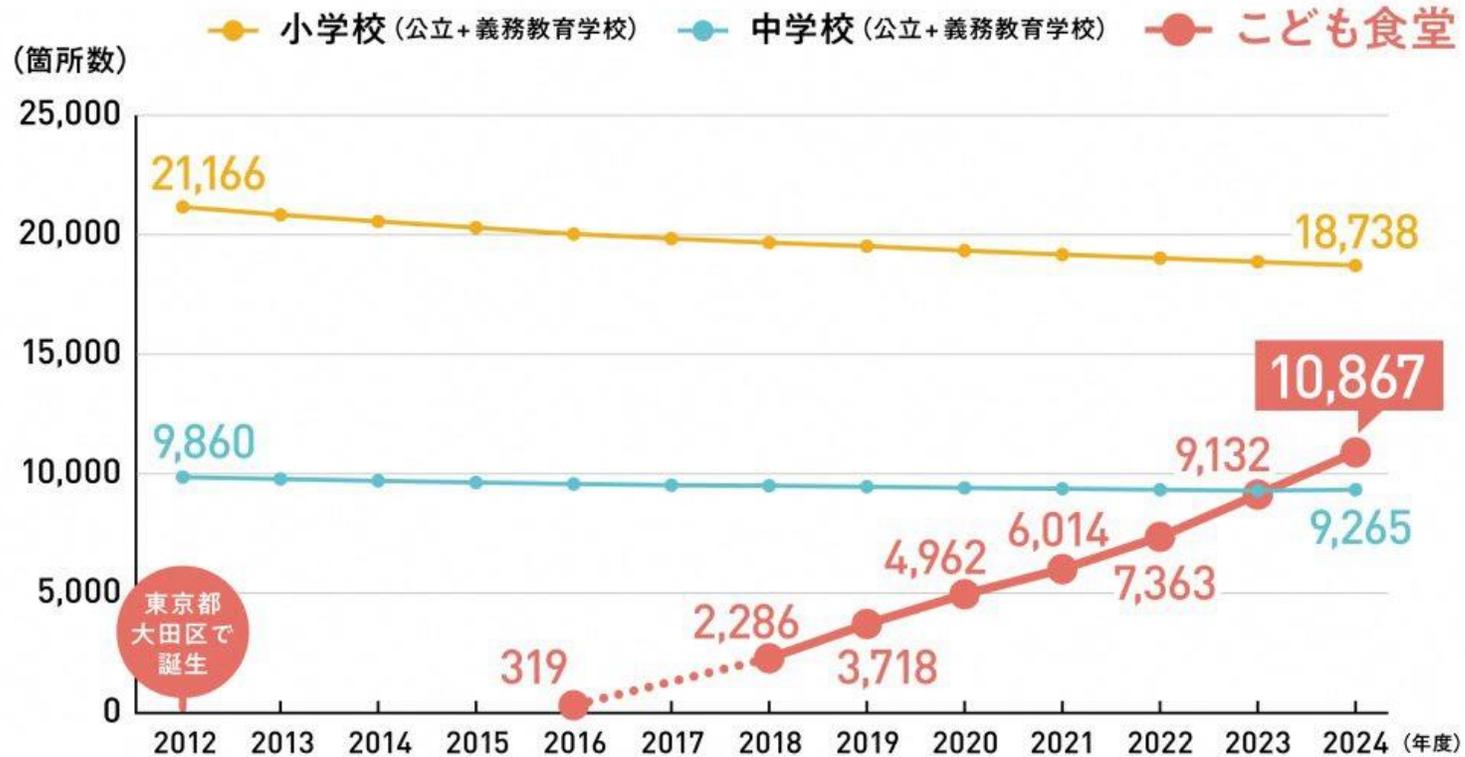
提案No	内 容
提案 1	生活実感を入力に、地域のことを「自分事」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう
提案16	自動車がなくても、買い物や通院に支障なく生活ができる工夫、仕組みをつくろう
提案17	身近な場所に拠点をつくり、様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう
提案18	医療や介護をできる限り必要とせず、健康で生き生きと長生きする「健康長寿」をめざそう

1-2 場の役割



「対話の場」 「集いの場」 「助け合い（につながる場）」

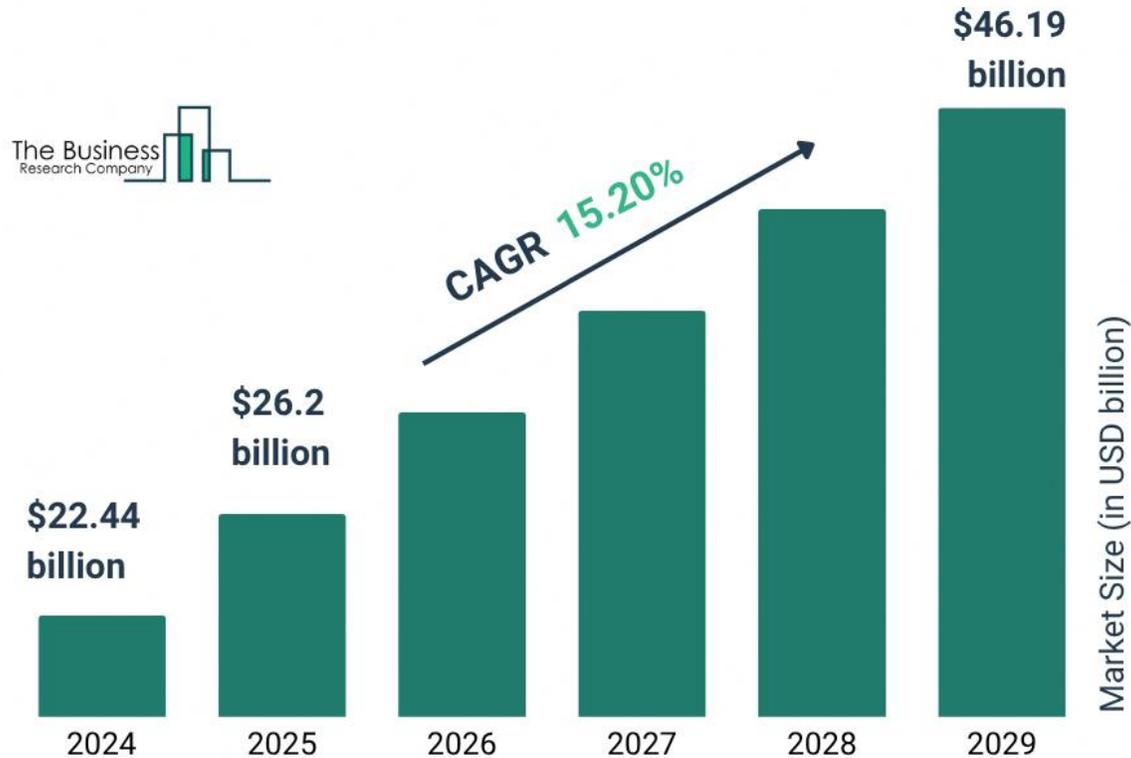
1-3 子ども食堂ネットワーク



- 食を通じて子どもの貧困対策と多世代交流を実現している。
- 高齢者参加も多く、孤食防止や見守りの機能果たしている

1-4 コワーキングスペース

Coworking Space Global Market Report 2025



コミュニティカフェ



異なるバックグラウンドを持つ人々が、仕事や作業を共有する空間で、交流や情報交換を行い、新たなビジネスチャンスや人脈を築く

1-5 コミュニティカフェ



- 地域住民の交流促進
気軽に集まれ、会話を楽しむ
- 居場所の提供
だれでも気軽に立ち寄れる場所

交流機会の重要性

目的は、さまざま。ふらっと気軽に立ち寄れる

1-6 社会的なニーズの高まり

「小さな拠点」づくり 事例集 ～ 取組概要と形成プロセス ～



内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進事務局



1-6 社会的なニーズの高まり

紹介した取組内容について

○各事例において紹介した取組内容について、以下のとおり分類し、各事例の1枚目の右肩にインデックスで表示しています。

分類	略号	取組内容
交通	交	・自家用有償旅客運送事業や無料送迎サービスなどの地域住民の移動支援やバス停などの交通結節機能など
観光・交流	観	・観光客へのサービス提供、都市農村交流事業や交流イベントの実施など
環境保全	環	・地域の草刈りや道路補修などの環境整備活動など
行政窓口	行	・行政サービス窓口業務
特産品	産	・農産物などの販売や、農産物や工芸品など地域資源を活用した特産品の加工と販売など
店舗	店	・日用品や食料品などの販売店舗
飲食	食	・食堂、レストラン、喫茶店・カフェ、地域食堂・子ども食堂など
GS	G	・ガソリンスタンド
買物支援	買	・移動販売、自宅配送などの集落や自宅に商品を届けるサービスや、店舗による送迎サービスなど
防災	防	・防災訓練や避難困難者の把握など
医療	医	・診療所や訪問看護サービスなど
福祉	福	・高齢者の見守り活動や地域サロンの開催など
子育て	子	・子どもの預かりサービスや子育て支援など
教育	教	・生涯学習講座や青少年の健全育成など
その他	他	・郵便局、金融移動車(JA)、大学連携、移住支援、営農支援など

1-6 社会的なニーズの高まり

事例No.07 <三重県松阪市宇気郷地区> 「コミュニティうきさと みんなの店」他

交通	観光・交流	環境保全	行政窓口	特産品
店舗	飲食店	GS	買物支援	防災
医療	福祉	子育て	教育	その他

○松阪市の宇気郷地区の中心部では、女性グループ「ささゆり会」が、食事処「うきさとむら」を運営。また、地区内の4自治会の一つである柚原町自治会が日用品等販売店舗「コミュニティうきさと みんなの店」と簡易郵便局を運営し、団体間の連携により住民サービスを確保。

○宇気郷住民協議会では、自治会を含めた地域内の団体や地域外の企業などと連携し、買物バスの運行や高齢者の居場所づくり、防災訓練、各種イベント、各種生涯学習事業を展開している。

- 人口154人、96世帯、高齢化率64% (H30、宇気郷地区)
- 宇気郷地区は柚原町自治会をはじめ4自治会からなる
- 松阪市街から車で約30分の山里にあり、冬季には、地区から市街地への道路が凍結しやすく、孤立することもある
- S63にバス路線廃止の動きがあったが、地域住民の努力もあって、バス路線は現在も維持
- H19にJAの出張所と簡易郵便局が閉鎖

市の地域コミュニティ政策

- H17の合併後、地域の特色を生かしたまちづくりの推進を目指して地域ごとに住民協議会の設立を推進
- H23年度末までに市全域の43地区で住民協議会が設立

店舗「コミュニティうきさと みんなの店」の運営

- 柚原町自治会（認可地縁団体）が日用品や食品、農業用資材等を販売する店舗を運営。
- 店舗運営にあたり、1世帯1万円、自治会から100万円を出資。地元出身者らも寄付。
 - ・JA出張所の土地建物を借用（後に自治会が購入）
 - ・店員は集落の女性が入り替わりで勤務、宅配も実施
 - ・住民のお茶飲みなど立ち寄りスペースを提供
 - ・路線バスの停留所があり交通結節機能を有する

宇気郷住民協議会による地域課題解決・交流活動の展開

- 宇気郷住民協議会が各自治会を補完し各種活動を展開。
 - ・大型商業施設まで「買物バス」を概ね週1回運行（無料）
 - ・公民館講座として生きがい学級やクラブ活動、交流事業を開催
 - ・盆踊りや体育祭、地域の祭りなど、各自治会の活動を支援

「松阪柚原簡易郵便局」の運営

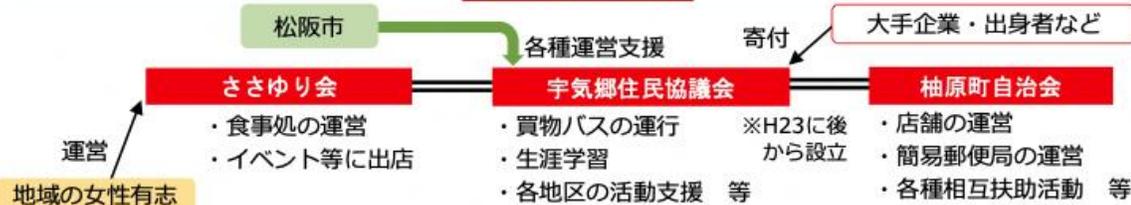
- 柚原町自治会が簡易郵便局を運営。
 - ・郵便と金融サービスの提供
 - ・郵便局は店舗と一体の建物
 - ・地域住民3名が職員として従事

食事処「うきさとむら」の運営

- 女性グループ「ささゆり会」が運営。
 - ・うどんなどの軽食を地域住民や観光客に提供
 - ・住民の集いの場・生きがいの場



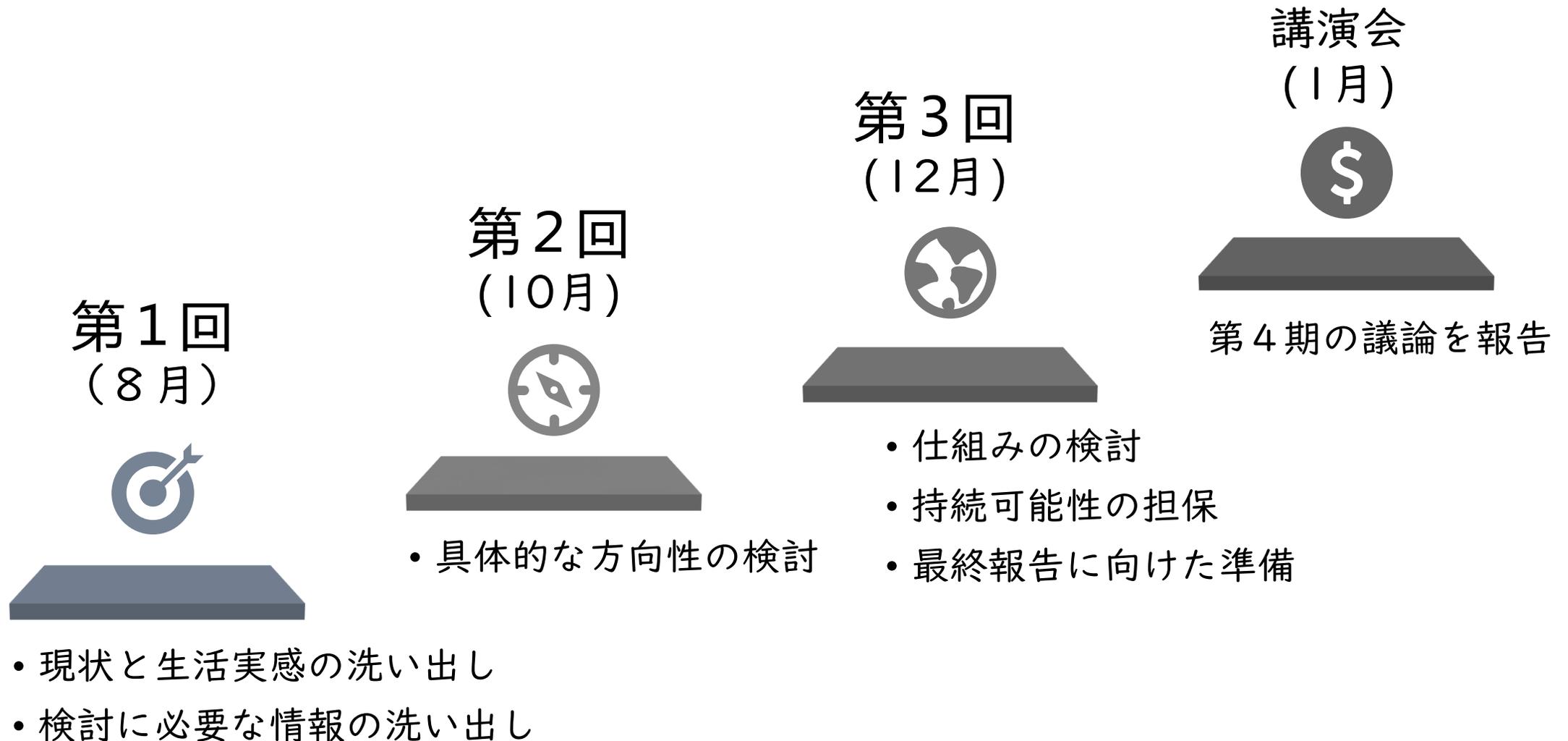
運営体制



02

各グループでの議論の進め方

2-1 議論の進め方



2-2 提案Ⅰ

生活実感を入力に、地域のことを「自分事」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう

Step 1 : 日常生活で感じる困りごと、安心・不安・喜びなどの洗い出し

Step 2 : なぜ？ 対話の場が必要なのか？



Final Step : 持続可能な「対話の場」づくり

2-2 提案16・17

- 自動車がなくとも、買い物や通院に支障なく生活ができる工夫、仕組みをつくろう
- 身近な場所に拠点をづくり、様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう

Step 1 : 日常生活で感じる困りごと、安心・不安・喜びなどの洗い出し

Step 2 : 既存の仕組み（現状の整理）と身近な拠点到求めること



Final Step : 「移動の工夫」と「拠点の設置」を組み合わせ

2-2 提案18

医療や介護をできる限り必要とせず、健康で生き生きと長生きする「健康長寿」をめざそう

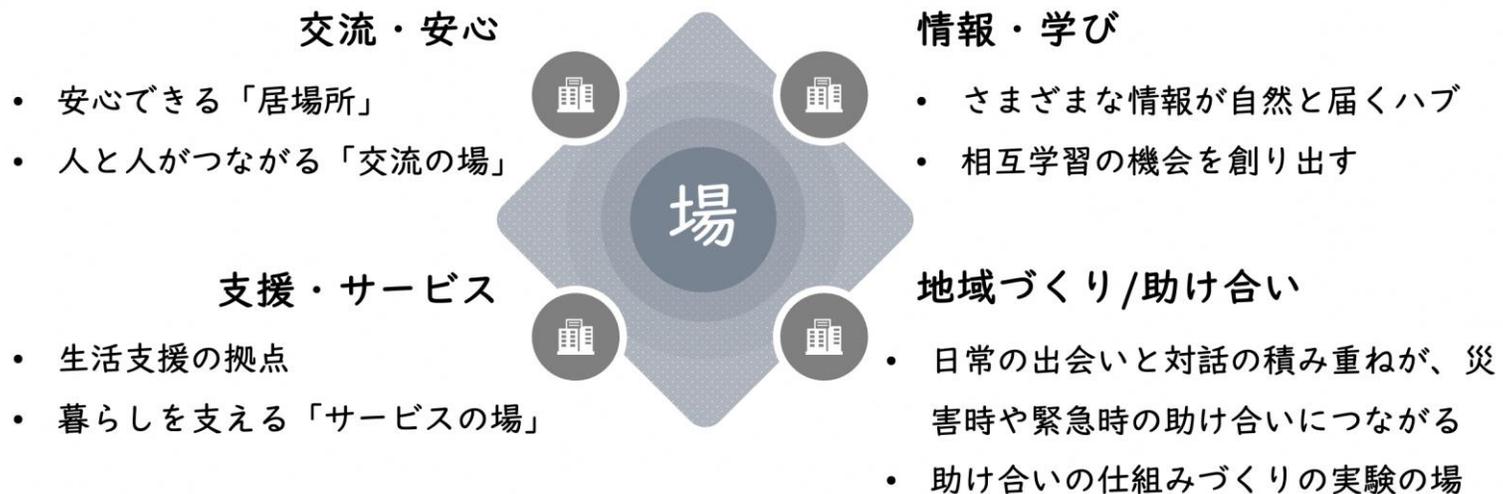
Step 1 : 日常生活で感じる困りごと、安心・不安・喜びなどの洗い出し

Step 2 : 既存の取組（現状の整理）と病気や介護になる前にできること



Final Step : 「運動」「食生活」「交流（こころのケア）」を組み合わせ健康長寿

1-2 場の役割



「対話の場」 「集いの場」 「助け合い（につながる場）」



制度・仕組み



暮らしを支える

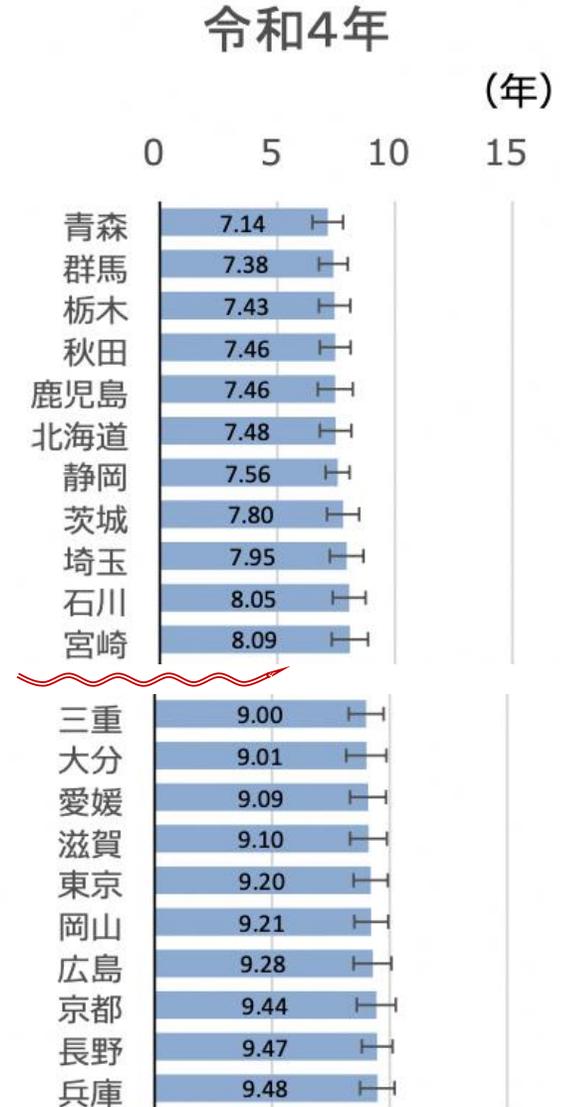
2-2 都道府県別の健康長寿



(参考) 健康格差のベースライン値 (令和4年値)

	男性	女性
上位1/4の都道府県の平均 (年)	73.27	76.12
下位1/4の都道府県の平均 (年)	71.75	74.77
両者の差 (年)	1.51	1.35

京都府	男性	女性
	72.14	75.78
	33/47	17/47



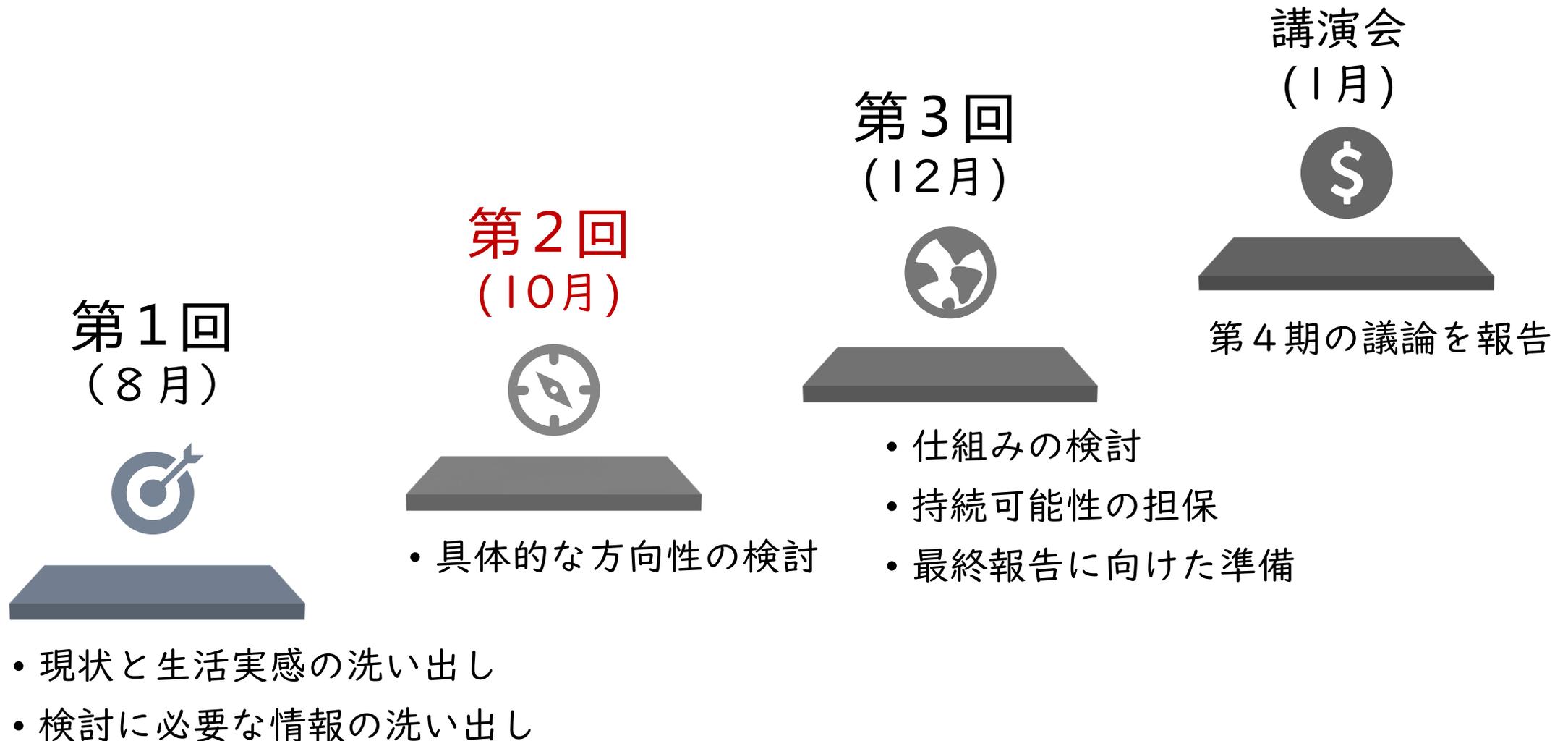
03

グループ分け

04

グループワーク

2-1 議論の進め方



Thanks

ご静聴ありがとうございました

福知山公立大学 地域経営学部 木村昭興

kimura-akinori@fukuchiyama.ac.jp